

令和4年度

小中学校保護者及び教員の教育に関する意識調査

結 果 概 要 版

この調査は、浦安市の小中学生の保護者及び教員が、現在の子どもたちの実態、教育における学校や家庭の役割、家庭における子どもとの関わりをどのように捉えているのか、さらに、浦安市の教育にどのようなことを期待しているのかなどを把握し、分析することを通して、本市教育の充実に資することを目的に実施したものです。

この結果概要版は、その中から主な結果を取り上げてまとめたものです。

●調査対象者及び調査期間●

- ＜調査対象者＞ 保護者：市立全小中学校の児童生徒の保護者
教員：市立全小中学校の教員
- ＜調査方法＞ Microsoft Forms によりパソコン及びスマートフォン等で回答
- ＜調査期間＞ 令和4年7月12日～8月26日

●回答者数●

- ＜保護者＞ 小学校 合計 2,421 人（1年生 413 人 2年生 397 人 3年生 404 人
4年生 363 人 5年生 401 人 6年生 418 人 無回答 25 人）
中学校 合計 993 人（1年生 342 人 2年生 317 人 3年生 309 人 無回答 25 人）
小中合計 3,414 人
- ＜教 員＞ 小学校 272 人、中学校 147 人、無回答 1 人 小中合計 420 人

●調査項目●

保護者と子どもの関係、保護者の学校・地域との関わり、
子どもの携帯電話やスマートフォン（インターネット）の利用、
子どもの放課後・休日の過ごし方
浦安市の教育施策、浦安市の学校教育 等

※前回までの調査は小学2年生、小学5年生及び中学2年生の保護者が対象であったため、設問によっては経年比較の対象が一致しない場合がありますことをご了承ください。

※表及びグラフの数値の単位は%です。

1 保護者と子どもの関係

(1) 子どもに対する接し方、しつけの仕方で心がけていること

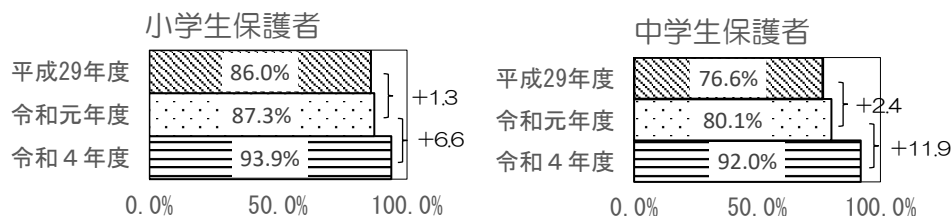
保護者が心がけている項目は、上位5項目が小中学生とも共通の項目となった。
小学生、中学生保護者のいずれにおいても「地震や火災が起こった時の安全な行動について話し合う」の割合が年々増加している。

表1-1 「心がけている」(「とても」+「まあ」) 上位5項目 (小中学生保護者)

項 目	小学生保護者	項 目	中学生保護者
子どもに毎日、朝食を食べさせる	99.0%	子どもに毎日、朝食を食べさせる	97.3%
子どもの努力をほめる	98.2%	コロナウイルス感染拡大防止の対策・行動をとる	97.3%
規則正しい生活習慣をつける	97.7%	子どもの努力をほめる	96.4%
コロナウイルス感染拡大防止の対策・行動をとる	97.1%	規則正しい生活習慣をつける	95.3%
学校での出来事について聞く	96.3%	学校での出来事について聞く	94.2%

グラフ1-2 経年による「心がけている」の割合の増減が顕著なもの (小中学生保護者)

「命の大切さについて話し合う」(とても心がけている + まあ心がけている)

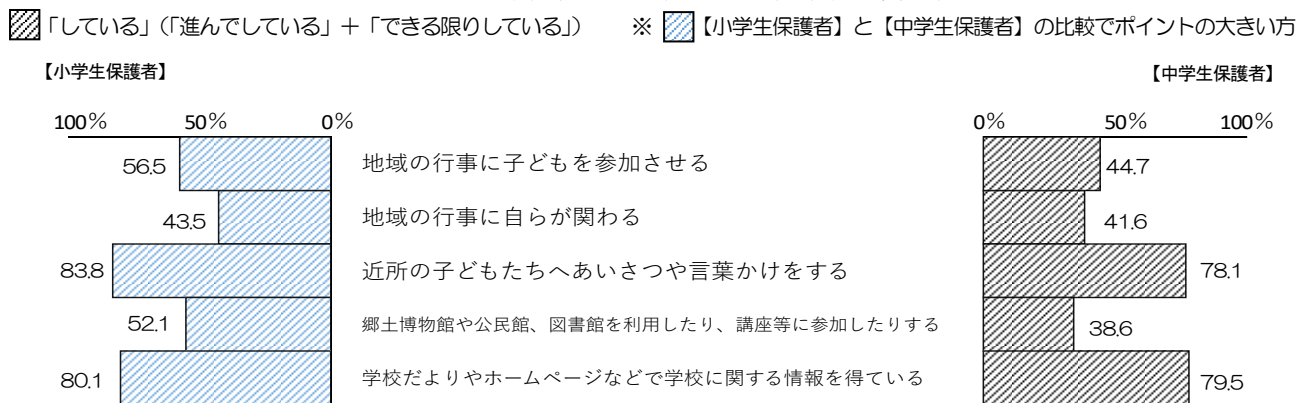


2 保護者の学校・地域との関わり

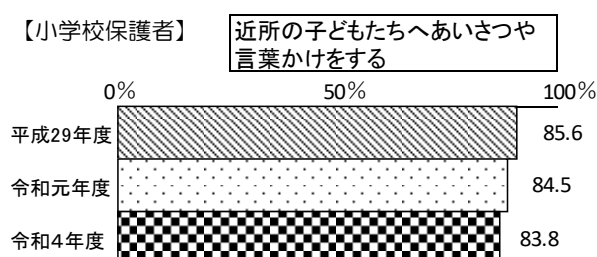
(1) 学校や地域との関わりでしていること

学校や地域との関わりは小学生保護者の方が積極的。(5項目全てで中学生を上回る。)
小学生保護者において「近所の子どもへあいさつや言葉かけをする」の割合が年々減少している。

グラフ2-1 学校や地域との関わり方 (小中学生保護者)



グラフ2-2 経年による「している」の割合の変化が顕著なもの (小学生保護者)



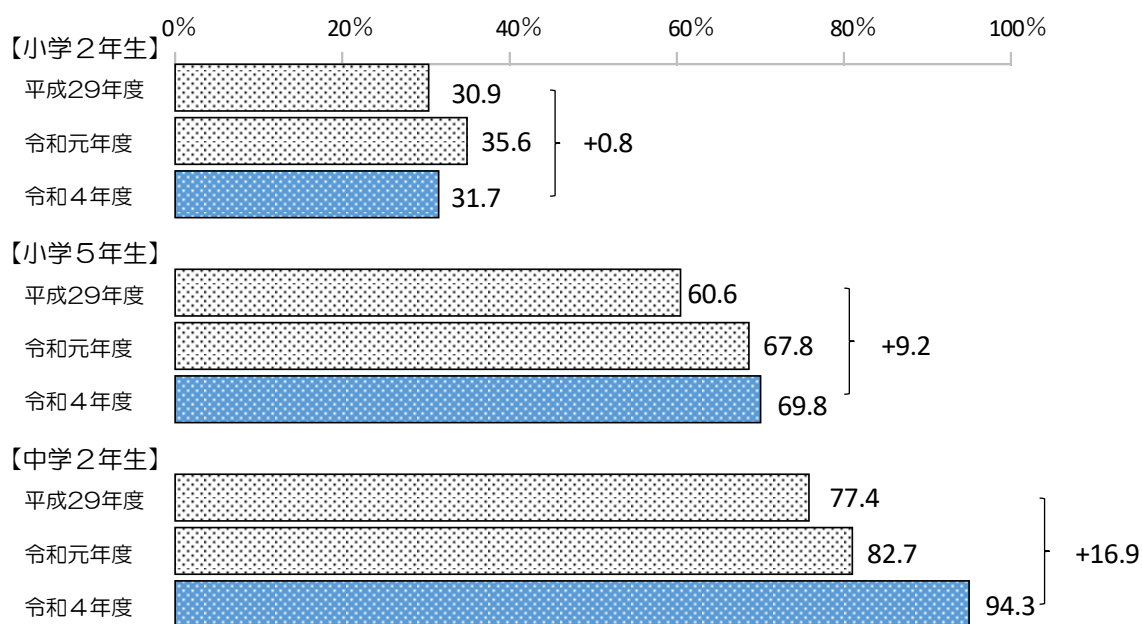
小学生保護者における「近所の子どもたちへあいさつや言葉かけをする」の割合が年々減少し、今年度は83.8%となり、平成29年度調査から年々減少しています。なお、平成21年度調査(90.7%)と今年度の比較では、7.1ポイントと大きく減少しています。

3 子どもの携帯電話やスマートフォン（インターネット）の利用

（１）子どもの携帯電話やスマートフォンの所有率

学年が上がるにつれて携帯電話やスマートフォンの所有率が増加傾向となっている。

グラフ3-1 子どもの携帯電話やスマートフォンの所有率（小中学生保護者）

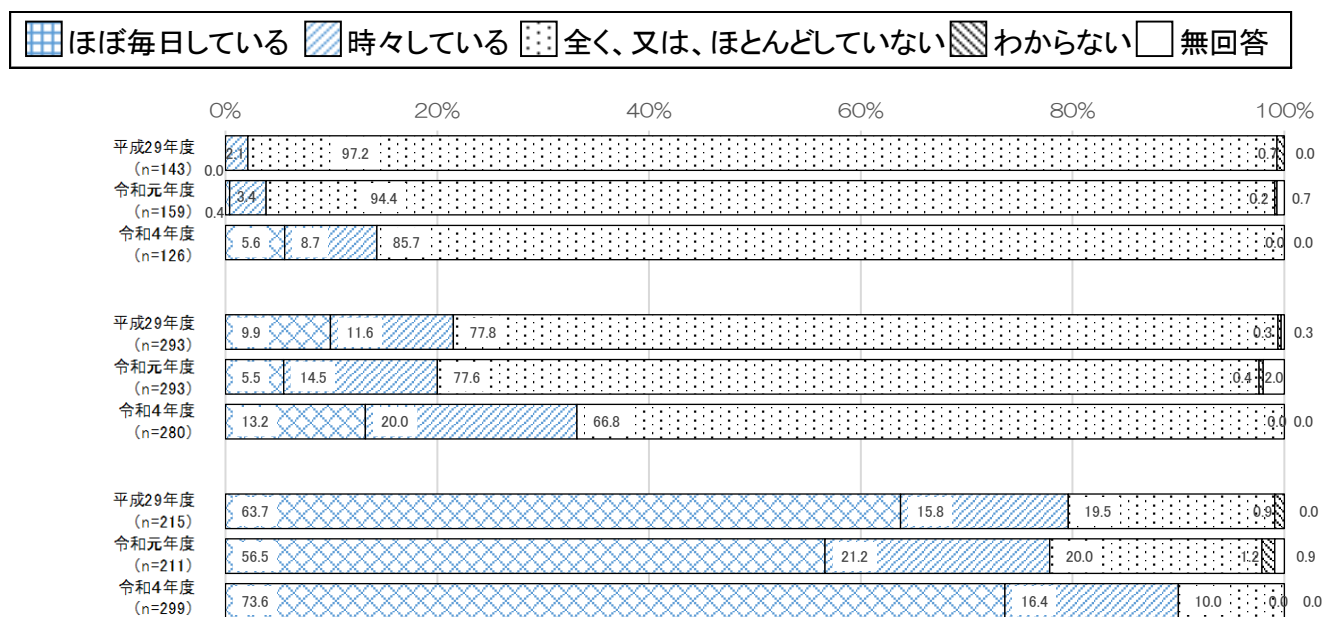


平成29年度調査と令和4年度を比較すると、小学2年生は0.8ポイント、小学5年生は9.2ポイント、中学2年生で16.9ポイント増加しています。

（２）SNS（Facebook やLINE、Twitter 等）の利用率

全学年とも前回調査より利用率が上がっており、学年が上がるにつれて利用率が増えている。

グラフ3-2 SNSの利用率（小中学生保護者）



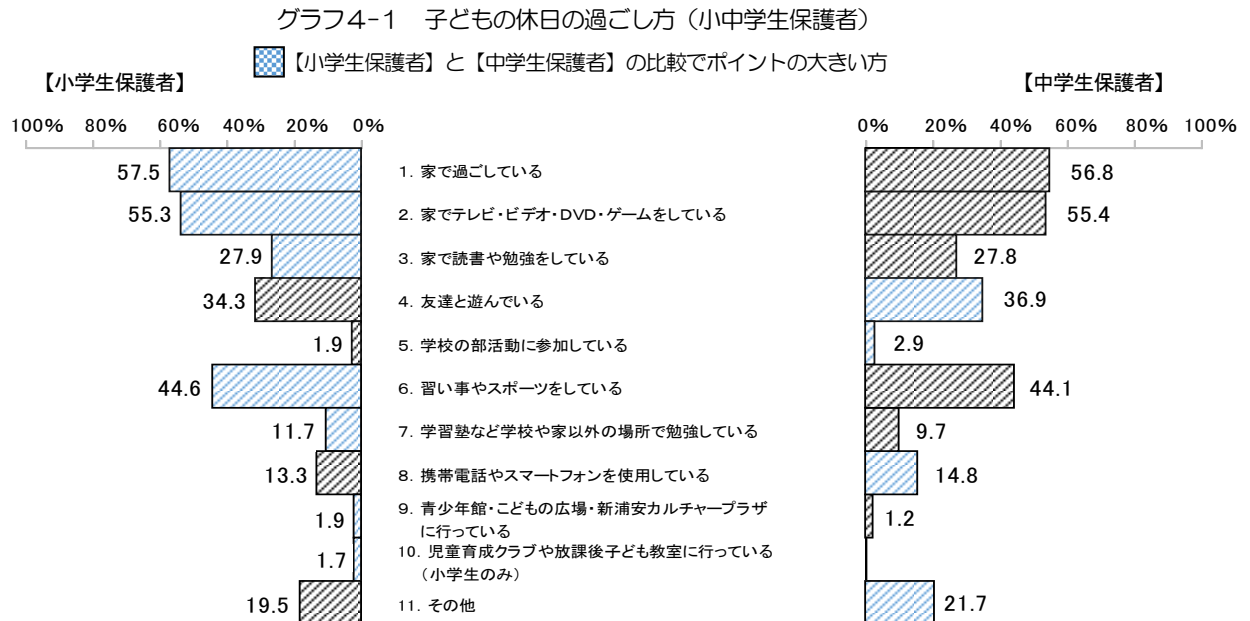
子どもの携帯電話やスマートフォンでのSNSの利用率（「ほぼ毎日している」＋「時々している」）は、前回に比べて小学2年生が10.5ポイント、小学5年生が13.2ポイント、中学2年生が12.3ポイント増加しています。

また、学年が上がるにつれて利用率が増え、中学2年生は90.0%がSNSを利用しています。

4 子どもの休日の過ごし方

(1) 子どもの休日の過ごし方

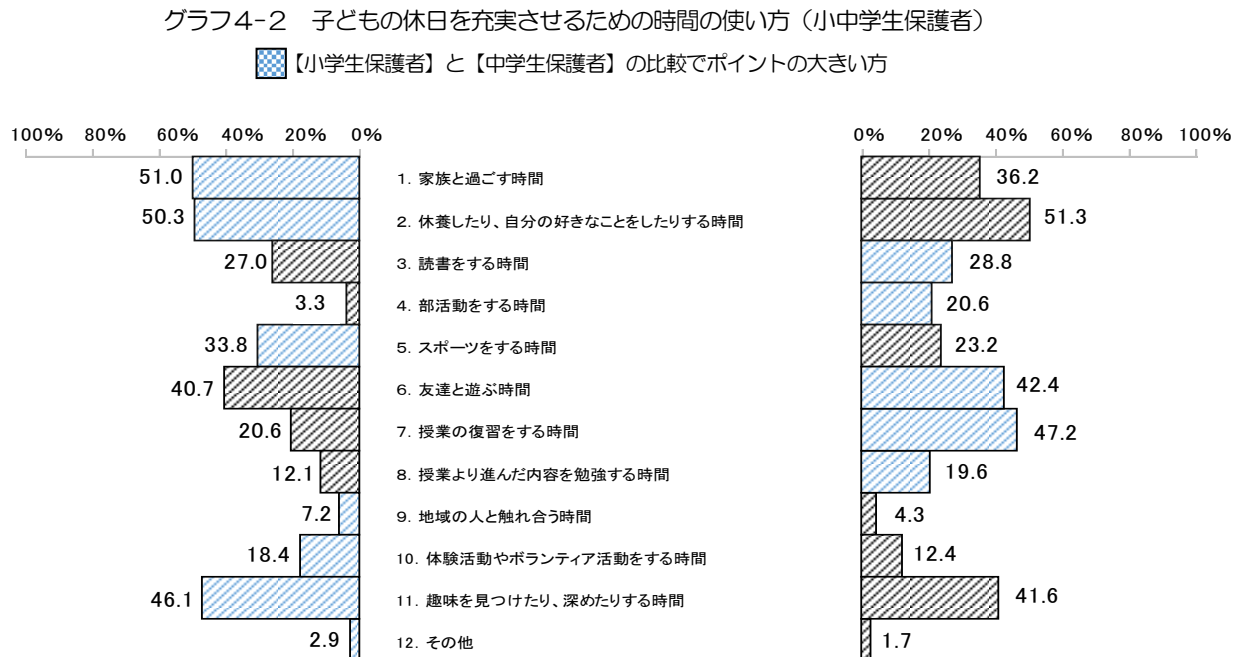
小中学生ともに「家で過ごしている」「家でテレビ・ビデオ・DVD・ゲームをしている」割合が非常に高く、次いで「習い事やスポーツをしている」「友達と遊んでいる」割合が高い。



小中学生に項目で大きな差は見られませんが、小学生は「家で過ごしている」「家でテレビ・ビデオ・DVD・ゲームをしている」「習い事やスポーツをしている」がより高く、中学生は「友達と遊んでいる」「携帯電話やスマートフォンを使用している」がより高いという結果でした。

(2) 子どもの休日を充実させるための時間の使い方

小学生保護者はスポーツや家族との時間、中学生保護者は部活動や学習の時間を重要視している。



小学生保護者は「家族と過ごす時間」と「スポーツをする時間」の2項目が中学生保護者より10ポイント以上高く、一方中学生保護者は「部活動をする時間」と「授業の復習をする時間」の2項目が小学生保護者より10ポイント以上高いという結果でした。また、中学生保護者は、「授業より進んだ内容を勉強する時間」も小学生保護者を7.5ポイント上回り、学習の時間を重要視していることがうかがえます。

5 浦安市の教育施策

学校教育の取組に対する満足度

小中学校保護者ともに安全や防犯に関する教育、ふるさと浦安の理解のための教育に対する取組について満足だと感じている割合が高い。

表5-1 「満足」（「とても満足である」＋「まあ満足である」）上位5項目（小中学生保護者）

項 目	小学生保護者	項 目	中学生保護者
ふるさと浦安の歴史・文化への理解に関する教育の充実	88.6%	防犯教育や交通安全教育の充実による、安全・安心な学校づくりの推進	81.7%
学校図書館教育、読書活動の充実	87.2%	就学前から義務教育9年間を見通した幼保小中連携教育の推進	81.1%
防災教育の推進	86.7%	ふるさと浦安の歴史・文化への理解に関する教育の充実	80.8%
防犯教育や交通安全教育の充実による、安全・安心な学校づくりの推進	86.0%	道徳教育、人権教育の推進	79.9%
道徳教育、人権教育の推進	82.4%	防災教育の推進	79.5%

小中学生の保護者が「満足」（「とても満足である」＋「まあ満足である」と回答とした割合が高い上位5項目のうち、4項目が共通した項目となっています。そのうち「ふるさと浦安の歴史・文化への理解に関する教育の充実」「防災教育の推進」は小学生保護者の満足度が中学生保護者より5ポイント以上高い結果となり、全体的にも小学生保護者の満足度が高い傾向がみられました。

また、小学校保護者は「学校図書館教育、読書活動の充実」、中学校保護者は「就学前から義務教育9年間を見通した幼保小中連携教育の推進」の満足度の高さが目立っています。

表5-2 「満足」下位5項目（小中学生保護者）

項 目	小学生保護者	項 目	中学生保護者
国際理解教育の推進	59.3%	義務教育9年間を通した外国語教育の充実	52.8%
義務教育9年間を通した外国語教育の充実	61.3%	国際理解教育の推進	53.3%
児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育の推進	61.3%	家庭の教育力の向上支援	57.3%
家庭の教育力の向上支援	65.6%	家庭学習や自主研究など自主的な学習活動の奨励・支援	59.4%
家庭学習や自主研究など自主的な学習活動の奨励・支援	66.0%	理数教育の推進	59.7%

小中学生の保護者が「満足」と回答とした割合が低い下位5項目のうち、こちらも4項目が共通した項目となっています。4項目のうち「義務教育9年間を通した外国語教育の充実」の割合の差は8.5ポイント、「家庭の教育力の向上支援」の割合の差は8.3ポイントと高くなっています。その他2項目についても、差が5.0ポイント以上となっており、中学校保護者の満足度が比較的低いことがわかります。

6 浦安市の学校教育

(1) 子どもに身についている能力や態度

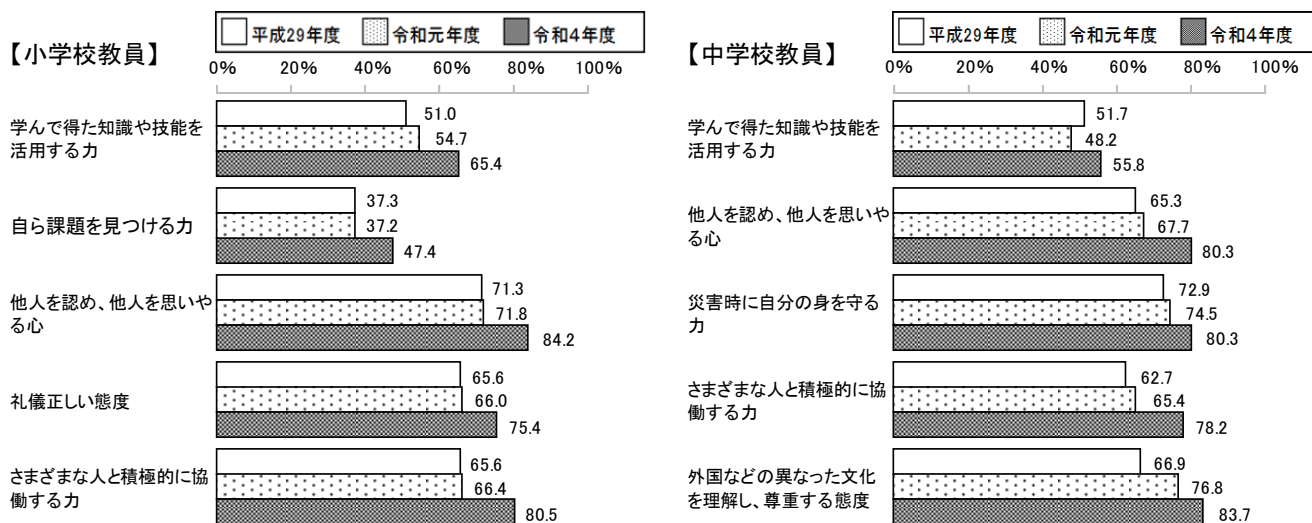
小中学校教員はともに「いのちを大切にする態度」「犯罪や交通事故から身を守る力」が身についていると感じており、経年で比較すると、小学校教員では「さまざまな人と積極的に協働する力」、中学校教員では「外国などの異なった文化を理解し、尊重する態度」の増加幅が最も大きくなっている。

表6-1 「身についている」(「よく」+「まあ」) 上位5項目 (小中学校教員)

項 目	小学校教員	項 目	中学校教員
いのちを大切にする態度	95.2%	運動する楽しさを知り、親しむ態度	93.9%
犯罪や交通事故から身を守る力	90.8%	いのちを大切にする態度	93.2%
災害時に自分の身を守る力	86.4%	社会のルールを守って善悪を判断し、行動する力	86.4%
自分を認め、自分を大切にする心	85.7%	犯罪や交通事故から身を守る力	83.7%
基礎的・基本的な知識や技能	84.9%	外国などの異なった文化を理解し、尊重する態度	83.7%

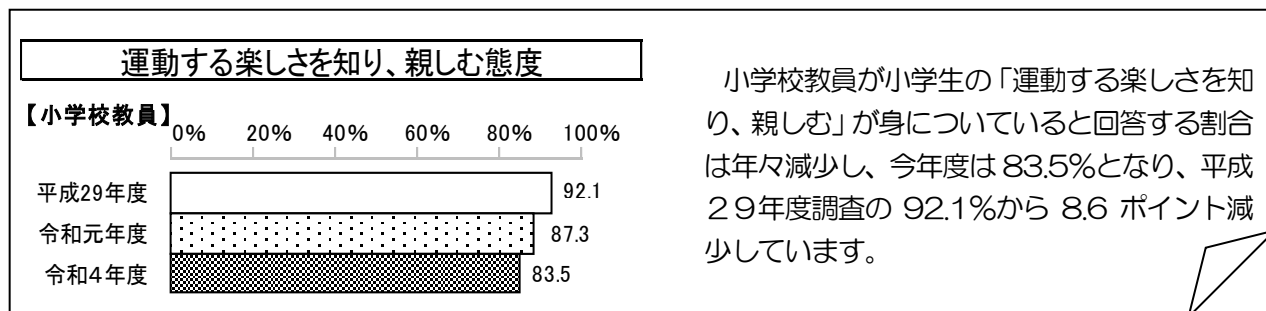
小中学校の教員が「身についている」と回答とした割合が高い上位5項目のうち、2項目が共通した項目となっています。また、上位の割合は小中学校の教員においてもほぼ同水準であり、大きな差は見られませんでした。

グラフ6-2 経年による「身についている」の割合の増加幅が特に大きいもの (小中学校教員)



多くの項目で、平成29年度調査から継続して増加しています。平成29年度調査から今年度調査までの増加幅が特に大きい項目は、小学校教員では「さまざまな人と積極的に協働する力」、中学校教員では「外国などの異なった文化を理解し、尊重する態度」の増加幅が最も大きくなっています。

グラフ6-3 経年による「身についている」の割合の減少幅が特に大きいもの



(2) 授業や学習指導においてしていること

教員が積極的にしている項目は、上位5項目中4項目が小中学校間で共通の項目となった。また、小中学校ともに資料を積極的に活用する割合が増加している。

表6-4 「積極的にしている」「進んでしている」+「できる限りしている」上位5位（小中学校教員）

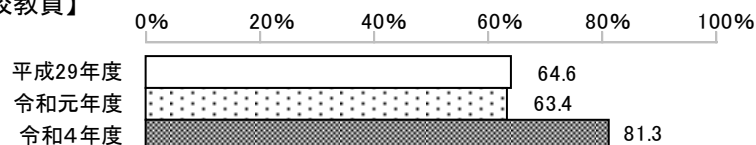
項 目	小学校教員	項 目	中学校教員
児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている	99.1%	学習規律を徹底している	99.2%
児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価している	99.1%	児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような課題の設定や発問をしている	98.4%
児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような課題の設定や発問をしている	98.7%	児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている	96.9%
学習規律を徹底している	98.3%	児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価している	96.9%
授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に見出す活動を計画的に取り入れている	97.8%	指導のねらいを明確にしたうえで、言語活動を適切に位置付けている	95.3%
		授業の中でその時間の見通しが持てるように提示している	95.3%

「児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている」「児童生徒一人一人の良い点や可能性を見つけ、児童生徒に伝えるなど積極的に評価している」では、中学校教員より、小学校教員の方がそれぞれ2.2ポイント高くなっています。

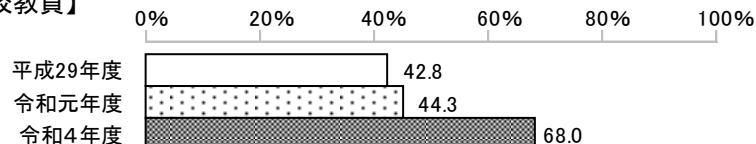
グラフ6-5 経年による「心がけている」の割合の増加幅が特に大きいもの（小中学校教員）

児童生徒に対して、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身につくよう指導している

【小学校教員】



【中学校教員】

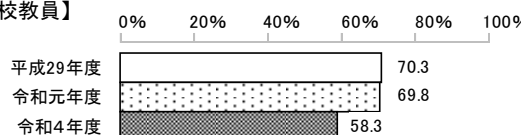


小中学校教員の回答を経年で見ると、小中学生ともに「児童生徒に対して、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身につくよう指導している」の割合が前回調査から大きく増加しています。

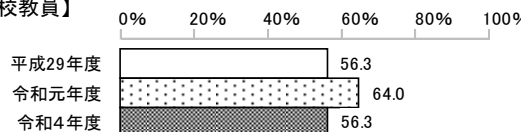
グラフ6-6 経年による「心がけている」の割合の減少幅が特に大きいもの

学校外での研修に積極的に参加し、授業に生かしている

【小学校教員】



【中学校教員】



「学校外での研修に積極的に参加し、授業に生かしている」の割合が、小学校教員は前々回から前回が0.5ポイント減であったのが、前回から今回では11.3ポイントと大きく減少しています。

中学校教員についても、前々回から前回が7.7ポイント増であったのに対し前回から今回は7.7ポイント減少しています。